

《令和7年度 PDCA サイクル実施計画・管理表》

令和8年3月末 現在

施設名	P 実施計画				実施管理				
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期 (予定)	D 実行	C 評価		A 改善	
						区分	実施内容	区分	今後の改善内容 (計画)
がん相談支援センター	多様な相談ケースに対する相談技術・知識を身につけ、相談対応能力の質の担保を図る	認知機能の評価と高齢者の身体・こころ・暮らしの基本的なアセスメントの視点と知識技術を習得し実践する必要がある	1) 65歳以上の相談事例には、高齢者特有の認知機能の変化に伴う生活への影響をアセスメントする 2) 相談支援の終了時に、情報提供や助言の結果を確認する声掛けを行う。実践を内省しPDCAを展開する 3) アセスメントしたことを相談記録に書き、部内共有を通して自他のスキルアップを図る 4) 院内リソースに相談した事例のアセスメント、実践について意見交換し活用した情報や資材を共有する	令和8年2月	○	達成	4月～2月の65歳以上の相談800件を月毎に分析し、高齢者特有の相談や連携が必要であった事例を部署で共有し、支援の検討と実践に繋げた。その結果として、家族からの相談は42%に増加し、がん治療、介護、緩和ケアなど多岐に渡る相談支援の必要性を確認できた。相談者より「治療を決められた」「身体が回復した」とフィードバックも得ている。今年度得られた情報と学びを元に、「高齢がん患者の意思決定支援」のツールを作成できたため、活用していく。	完了	
	相談支援を必要とする人が、必要なタイミングで、がん相談支援センターにつながる事ができる	院内従事者に、がん相談支援センターの役割、機能、相談内容の実際について、認知度の向上を図る必要がある	1) 相談記録を電子カルテへ記録する運用を行い、院内従事者と情報を共有する 2) 情報共有・連携例を各部門（外来・病棟・医師）と事例検討（不定期）を行い、課題を明確化し改善する 3) 相談支援センターでのカンファレンス（週1回）の継続と、多職種カンファレンス（月2回）を活用し、患者サポート体制充実加算の施設基準を満たす体制の強化を図る	令和8年2月	○	達成	広報リーフレットを活用して、部署や診療科への周知活動を実施した。院内医療者からの依頼件数は、141件（4～2月）となり、前年度同月比58%増であった。依頼内容の内訳は、アピアランス、仕事との両立支援、傷病手当、社会保証制度の順に多かった。目標件数を上回る依頼があり、広報活動の成果と評価する。 また、多職種カンファレンスを継続的に行い、最新の治療情報や診療実績に関する知見を得て、対応に活かすことができた。連携が必要な事例に関しては、相談者の同意のもと該当部署に事例提供と問題となる情報の共有を行った。対応策の準備ができ安全に治療を進められたとの評価を得ている。相談記録をFileMakerに移行したことで、電子カルテに相談記録を記載できるようになり、医療者間での情報共有が強化できた。	継続	相談者からのフィードバックやモニタリングを行い質評価を可視化し、相談支援の質向上を図る

(注) 実施管理・区分欄の記入について

C評価における区分は、達成・概ね達成・未達成 から、A改善における区分は、完了・継続・その他 から、それぞれ1つ選んで記入する。

兵庫県立がんセンター